

2016 合同教育研究全道集会 分科会研究課題

第1分科会 国語教育

- 研究課題
- (1) 国語教育の現状と中心課題
 - ① 子どもの学力の実態と国語教育の現状
 - ② 改訂習指導要領・道徳教育の強制など教科書の問題点と教育課程づくり・自主教材の内容充実
 - ③ 研究の組織化と日常のとりくみ
 - (2) 日本語教育一・小・中・高の関連を明確にして
 - ① 日本語の基礎（音声・文字・語彙・文法・漢字漢語教育など）をどう教えるか
 - ② 子どもの日本語の学力問題
 - (3) 言語活動教育
 - ① 読み方教育・文学教育（文学的文章・現代文学・古典文学・説明的文学・評論教材）の内容と指導法
 - ② 作文・つづり方教育（韻文・小論文などを含む）
 - ③ 自主教材の発掘・研究（憲法の教育・平和教育・北海道の文学）
 - (4) 読み聞かせ・読書活動

第2分科会 外国語教育

- 研究課題 (1) 外国語教育の現状と課題 ― 児童生徒の学力の実態・外国語教育の現状と今後をとらえ、実践と研究を明らかにする
- ① 外国語教育の目的と全体構造を明らかにする
 - ② 学習指導要領の問題点を実践的・理論的に明らかにする
 - ③ 新たに導入される小学校での評価を含め、評価方法と課題を明らかにする
 - ④ 小学校での外国語活動の実態と課題を明らかにする
- (2) 外国語教育の内容と方法
- ① 言語体系（音声・文字・語彙・文法）の教育内容と方法を明らかにする
 - ② 言語活動（音声コミュニケーションと文字コミュニケーション）の教育内容と方法を明らかにする
 - ③ 取り上げる言語材料の選定・掘り起こしを行い、その指導過程を明らかにする

第3分科会 社会科教育

- 研究課題
- (1) 主権者を育てる社会科（小・中・高を通して 地理・歴史・公民等を含む 以下同様）の授業や教育課程をどのようにつくるか
 - (2) 生活感覚につなげ実感をわきおこさせる社会科の教材をどう開発するか
 - (3) 社会科の背景となるであろう諸科学・学問とどうつなげるか
 - (4) 社会科教育を取り巻く現状・課題の検討（(1)～(3)とも関連させながら）

第4分科会 数学教育

- 研究課題
- (1) 「数学は本当におもしろいなあ」という気持ちにさせるにはどうしたらよいか
 - (2) 楽しみながら、数学の世界が見える教材にはどんなものがあるか
 - (3) 子どもの学習意欲をもり上げる数学教育とはどんなものがあるか

第5分科会 理科教育

- 研究課題
- (1) 子どもが楽しみながら自然科学の基礎を着実に学ぶことができる授業をどのように作るか
 - (2) 子どもと教師の意欲を引き出す、わくわく実験やものづくり教材をどのように開発するか
 - (3) 「地域の自然」をどのように教材化するか
 - (4) 「自然科学教育が育てる学力」を身につけることができる教育課程をどのように作るか

第6分科会 美術教育

- 研究課題
- (1) 子どもたちを取り巻く様々な状況・実態を明らかにし、美術教育によって身に付けることのできる力をどのように育ててゆくかを現場の実践を通して研究を深める
 - (2) 作品制作や鑑賞を通し、子どもたちが主体的に自己の感性を高め、達成感や心からの感動を味わうことができる授業や教材について研究する

第7分科会 書教育

- 研究課題
- (1) 正しく美しい文字を書きたい、思いや感情を込めた文字表現をしたい、という子どもたちへの指導・援助のあり方を探る
 - (2) 「生きる力」や「自己肯定観」について、子どもたちの作品を通じて考える
 - (3) 子どもたちをとりまく今日の社会や教育の現状を検討し、子どもたちの「育ち」にとって、書教育がもつ可能性について検討する

第8分科会 音楽教育

- 研究課題
- (1) 音楽教育の問題点とその解決の方向性を明らかにする
 - (2) 生きいきとした音楽の授業はどうしたらつくれるのか
そのための教材、子どもの見方、目標の設定と評価、授業方法を実践的に解明していく
 - (3) 主体的な全校音楽文化活動のあり方とその実践づくり
 - (4) 子どもの成長発達に即した音楽教育の展望を明らかにする

第9分科会 技術・職業教育

研究課題

(1) 技術・職業教育をめぐる状況

- ① 生徒をとりまく状況（学習・生活・進路）
- ② 教育条件の整備と北海道の教育政策
- ③ 学校間連携・地域との連携
- ④ キャリア教育と技術・職業教育

(2) 教育実践と学校づくり

- ① 中学校の教育実践（技術科）
- ② 高等学校の教育実践（専門学科・総合学科・普通科）
- ③ 職業教育・職業訓練と学力保障
- ④ 学習指導要領と教育課程の編成

第10分科会 家庭科教育

研究課題 (1) 総合的に学ぶ家庭科で子どもが主体となる学びをどうつくるか

- ① 子どもの生活の現状をどうとらえるか
- ② 小・中・高の現状はどうなっているか
- ③ 家庭科における子ども主体の学びをどうつくるか

(2) これからの家庭科教育

- ① 学習指導要領・教科書と家庭科
- ② 家庭科教育に関わる条件整備

第11分科会 保健・体育教育

《学校保健分散会》

研究課題

(1) 学校保健の実践的課題

- ① 子どもの健康・発達を保障する健康診断をどう創造していくか
- ② 健康認識をどう育てるか
- ③ 様々な発達課題に向き合う子ども・青年の自立をどう援助するか
- ④ 自主的な保健委員会活動をどう育てるか
- ⑤ 民主的な学校保健づくりと地域・父母との連携

(2) 学校保健の現状と課題

- ① 子どもの健康・発達実態とその課題
- ② 健康診断、予防接種、スクールカウンセラー、特別支援教育のあり方、いじめ問題をめぐる状況の交流
- ③ 保健指導（性教育を含む）の実践交流
- ④ 脱ゆとり教育・学力偏重主義が子どもたちに与える影響と課題
- ⑤ 学校保健をめぐる教育条件と養護教諭の権利問題の現状と課題
- ⑥ 全校配置・複数配置運動前進のための取り組み

《保健体育分散会》

研究課題

(1) 教育課程の編成と改善・充実

(2) 保健体育の授業研究、実践交流と今後の課題

- ① 体育の授業実践の交流
- ② 誰でもできる授業の交流

(3) 部活動・少年団・体育的行事の実践交流

第12分科会 総合学習・生活科

研究課題

- (1) 「総合」の授業づくりにおけるアプローチとその成果についての検討
 - ① 学習者の要求（学びたいこと）と教師の要求（学ばせたいこと）の統一にどうとりくんだのか
 - ② 目標設定における知識・技能・情意の統一にどうとりくんだのか
 - ③ 子どもにどのような力がついたのか、その検証はどのように行っているのか
- (2) 「生活」の授業づくりにおけるアプローチとその成果についての検討
 - － 特に体験によって学ばれたことを、具体的に子どもの学習の成果から厳密に検証を図る
- (3) 総合・生活科と、学校づくりや教育課程との関係の在り方を探る
- (4) 私たちが、総合・生活科でつけた「学力」とは何か？
 - ① 地域の学力とは何か
 - ② 誰の、何のための学力か

第13分科会 教育課程と子どもの学力評価

- 研究課題
- (1) 子ども・生徒の学力と発達の現状、小中学校における「全国学力・学習状況調査」の影響
 - (2) 教育課程づくりのとりくみと課題
 - (3) すべての子ども・生徒に確かな学力と発達を保障する、わかる授業と総合学習
 - (4) 子ども・生徒の自治能力を育てる学級活動・部活動・生徒会活動など、それらを通じた学校づくり
 - (5) 子どもたちの発達を保障する評価
 - (6) 「道徳教育」押しつけの実態と、民主的人格をめざす道徳の実践

第14分科会 学校と家庭の生活指導

研究課題

- (1) 北海道の各地域に見られる子どもの生活状況
 - ① 発達に刻み込まれた『貧困』状況と発達要求を交流し、つかむ
 - ② 『学力』問題、ゼロトレランスに揺れる学校で子どもたちはどうなっているのかを交流する
- (2) 安心できる居場所づくりと自信を生み出す活動
 - ① 「学校」「教室」に安心できる居場所をどのように作り出したのか
 - ② 発達要求にもとづいた自信を生み出す活動をどのように作り出したのか
- (3) 子どもの現実と響き合う自治活動
 - ① 子どもと子ども、子どもと大人が語り合い、対話・討論・討議のなかでどのような合意をつくり出したのか
 - ② 『遊び』や『学び』を通して、平和的で共感的な世界をどのように作りだしたのか
- (4) 子どもをまん中においた共同
 - ① 子育て・教育実践の悩みを語り合う関係づくり
 - ② 子どもの発達を支援するネットワーク

第15分科会 教育条件確立の運動

研究課題 (1) 国と地方、地方自治体の教育予算の問題点と子ども・教育への影響

① 義務教育費国庫負担金や就学援助費の削減、学校統廃合・学校現業職「委託化」・「道立学校支援室」設置とその影響、私学助成の抑制と実態など

② 「貧困と格差」拡大が子ども・教育に及ぼす影響、「高校就学支援金制度」問題、給食費・教材費などの学校徴収金の実態など

(2) 教育費無償化、ゆきとどいた教育を求める運動の進め方

① 少人数学級の実現、教職員定数増と労働条件の改善

② 子どもの学習権と地域の教育を守る運動

③ 子ども・青年の修学保障、私学助成の拡充など教育予算充実の運動

第16分科会 子ども、父母参加の学校づくり

- 研究課題
- (1) 子どもと学校、家族・家庭、地域の現状を、教育政策との関係を踏まえて、しっかりとつかむこと
 - (2) 子ども、保護者と教職員、そして地域による学校づくりの実践交流をすること
 - (3) 教職員集団の実態を踏まえ、同僚性を高め、教育的力量をどのように高めあうか。授業づくりや自治活動を中心としながら、教育活動と民主的學校づくりを共同的・創造的にすすめていくために何が必要かを明らかにすること
 - (4) 学校づくりにおけるPTA、教職員組合、行政の役割をどうとらえ、その役割を發揮していくために何が必要かを明らかにすること
 - (5) 政治が教育に大きく介入する情勢の下、「日の丸・君が代通知」「情報提供制度」などの教職員と学校を上から縛る政策や、「教職員評価制度」「査定昇給制度」など教職員への管理統制が進められる中、これからの学校づくりの課題を明らかにすること
 - (6) 地域の衰退と「子どもの貧困」が進む中、福祉的支援がある学校づくりの視点を明らかにすること

第17分科会 地域における子育て・学習運動

研究課題

(1) 学校・地域における新たな動き

- ① 新自由主義（市場原理）に基づく教育体制の再編、効率主義の強化と格差の拡大（学校教育法、社会教育法の改定など）
- ② 市町村合併と学校統廃合による教育施設の格差拡大
- ③ 学校教育における学力と評価「地域の教育力」の問い直し
- ④ 「子ども・子育て支援新制度」導入に伴う課題

(2) 地域における子育ての共同をどう広げるか

- ① 子育てについての親たちの悩み
- ② 子育てと学校教育の接点をどうつくるか
- ③ 地域における子育てネットワークをどう広げるか
- ④ 地域における子育ての共同と公的支援

第18分科会 地域と学校の文化・スポーツ活動

- 研究課題
- (1) 政治や経済状況が、文化・スポーツ活動にどのような影響を与えているのか、また、過剰な情報化とスマホ・PC・ゲーム依が深刻化する中で、子どもたちの日常生活はどうなっているのか
 - (2) 地域における文化的活動や各種行事・各種スポーツ活動をどのように進めたか、また、地域の現状や課題はどのようなものか
(演劇・合唱などの音楽的活動、郷土文化・民俗芸能・伝統行事などに関連する活動、読書・読み聞かせ・図書館利用などに関連する活動、各種スポーツサークル活動、学童保育など)
 - (3) 学校における文化的活動・体育的活動をどのように進めたか、また、学校の現状や課題はどのようなものか(学校行事、生徒会行事、読書活動、学校図書館、各種部活動など)

第19分科会 国民のための大学づくり

- 研究課題
- (1) 政府の大学再編政策、高大接続と大学改革の動向、それらが教育に及ぼす影響を明らかにする
 - ① 高校生の学力と高校教育の変化、大学教育への影響
 - ② 大学入試制度改革の動向（「基礎学力テスト」、センター試験・個別試験の改革、受験産業の影響）
 - ③ 安倍政権の下、グローバル企業の要求と経済政策への従属を強める大学政策の動向（「文系廃止」、職業高等教育機関の創出）
 - ④ 目標・評価と経営改革を通じた統制（「ガバナンス改革」）は、教育・研究の現場に何をもたらしているか
 - ⑤ 教員養成・研修政策（教員養成・資格制度、免許更新制、教職大学院）の動向と問題点を解明する
 - (2) 国民のための大学創造のとりくみ、実践的課題
 - ① 科学者と大学の社会的責任—研究不正、東日本大震災・福島第一原発事故の教訓
 - ② 誰もが学ぶことのできる高等教育の創造（高等教育無償化、公費支出の拡充、生涯教育との連携）
 - ③ 望ましい高大接続のあり方の探究（大学との関係を視野に入れた高校の学習・進路指導、高大連携）
 - ④ 学生・教職員協働による研究・教育の創造
 - ⑤ 学生の進路と社会的権利の保障
 - ⑥ 教職員の賃金、健康、労働条件を守るとりくみ

第20分科会 障害児・障害者の教育と福祉

- 研究課題
- (1) 小学校・中学校における特別支援教育の実践と課題
 - ①通常学級における特別な支援や配慮の必要な子どもの教育の現状と課題
 - ②通級指導教室の教育の現状と課題
 - ③障害児学級の教育の現状と課題
 - (2) 障害児学校における教育実践と課題
 - ①乳幼児記から学齢期までの相談・保育・福祉の現状と課題
 - ②訪問教育、医療的ケア、重複障害児の教育の現状と課題
 - ③寄宿舎教育の役割と教育実践
 - (3) 青年期における特別な支援や配慮の必要な子どもの教育および就労・社会参加に関わる現状と課題
 - ①「高等部の在り方」報告に関わる課題
 - ②高等養護が高の教育実践、進路保障、専攻科の課題
 - ③通常高等学校における特別な支援や配慮の必要な子どもの教育の現状と課題
 - ④自立支援法の問題点と自立を可能とする生活保障の問題
 - ⑤卒業後の新たな取り組みの実践と課題
 - (4) 共通課題
 - ①合理的配慮
 - ②特別支援教育の諸問題

*一日目は映画「学校Ⅱ」を鑑賞して、映画が完成した二〇年前と現在と特別支援教育を取り巻く現状と課題について話し合います。そのため、一日目にレポート交流は行いません。

*今年度は、平成28年1月7日～9日に札幌で開催される、「全国学級・学校学習交流集会」の「プレ研修会」として位置づけています。指定レポートの交流、検討を優先的に行いますのでご承知ください。

第21分科会 環境・公害と教育

研究課題 地域における自然・環境問題、学校地域における自然保護教育・環境教育をみつめ、課題や問題点を科学的・総合的にとらえ、地球環境問題も視野に入れつつ、我々が何をなすべきかを問い、明らかにします。

- (1) 地域の自然・環境問題について、それぞれの自然保護教育・活動を交流し、課題を明らかにしましょう。生物多様性、外来種・生態系、希少種、自然の豊かさ、自然体験などをキーワードに討論します。自然と人間の距離が今日ほどかけ離れてしまった時代は、かつてなかったかも知れません。こうした状況の中で自然への畏敬の念を育み、生命を慈しむ心情をそだてる自然体験や環境教育のあり方を考えましょう。
- (2) 台風の相次ぐ発生と襲来、局地的豪雨や猛暑など大きな被害をもたらす異常気象や気候変動の実情や原因について学びましょう。地震・火山噴火など自然災害としなやかに共生しつつ、被害をいかにして軽減するかについて考えましょう。
- (3) 福島第一原発事故から5年半、事態は全く収束していません。一方で川内原発を筆頭に再稼働が進められ、再び「安全神話」が宣伝されつつあります。放射能汚染にどう対処するのか。原発の収束をどう行うのか。人類は原発と共存できるのか。原発に替わるエネルギーをどうするのか。これらの問題に正面から向き合い、議論しましょう。
- (4) 地球温暖化や地球環境問題、グローバリズム経済によって拡大する地球規模の経済格差と環境破壊について、学校・地域でどう取り上げられ実践されているのか。現状と課題を考えます。
- (5) 自然環境活動や教育実践の中で、教師・研究者・地域住民の連携、ネットワークの現状はどうか。連携を深める仕組み作りや課題を明らかにしましょう。

第2 2分科会 平和・憲法 人権・民族と教育

《平和・憲法》

研究課題 近年「特定秘密保護法」から「集団的自衛権」「安保関連法案」へと戦争のできる国作りが進められ、さらにこの夏の参議院選の結果、具体的な「平和憲法改悪」への道が開かれようとしています。

また、戦後70年を経て、この改憲の動きとからめ「平和」へのとりくみをどう構築していくのか、その実践と理論を学びあいます。

- (1) 憲法公布70年の年。「憲法改悪」への動きに対する私たちの理論立てをどう進めていくのか
- (2) 同時に「18歳選挙権」導入により、教育現場は今どうなっているのか
- (3) 戦後70年を経て、日本の「文化としての平和」をどのように展開していくのか

《人権・民族と教育》

- 研究課題
- (1) アイヌ民族その他の民族的少数者が日本社会の中で直面している課題を明らかにし、その克服のすじみちを考えます
 - (2) アイヌ民族その他の民族的少数者の歴史と現状にかかわる課題を、教育実践としてどう取りあげたか、その成果を交流します
 - (3) 国際社会や国内情勢の中で、少数者であるために、差別・無視・排除など様々な「人権」侵害に遭遇している人々の例について理解を深め、「人権」感覚の深化と、つながり合う行動への契機を探ります

第23分科会 子ども・青年の発達と教育

- 研究課題
- (1) 子ども・家庭・学校・地域の現状を出し合い、その深い理解を図る
 - ① 子どもの声・文章を持ち寄り、検討する
 - ② 具体的事例から、分析、共有を図り、教育の営みを深める
 - (2) 子ども・青年の生活と発達の保障・援助という観点からの報告と検討を総合的に行う
 - ① 実践報告から、その分析と共有の中で、現代日本社会における子ども・青年の生活と発達について考える
 - ② 学校以外での実践や活動の報告を受け、発達援助のあり方を総合的に検討する
 - (3) 子ども・青年の発達援助に関わる方々の困難と希望を話し合う
 - ① 教師だけでなく、幅広い発達援助職の方々との交流と対話を通して連携と共同のあり方を深める
 - ② 子ども・青年の発達と教育分科会の価値の再認識を図る

第24分科会 不登校・登校拒否・高校中退

- 研究課題
- (1) 不登校・登校拒否・高校中退・ひきこもりの現状の認識を深める
 - ① 小・中・高・地域の実態の変化
 - ② 「経済格差」「子どもの貧困」の実態
 - (2) 解決に向け、どのようにとりくんでいるか
 - ① 文科省の「対策」について検討
 - ② 進路・就労の実態
 - ③ 全道の支援機関の交流とネットワーク
 - ④ 親の会の活動と願い
 - ⑤ 学校現場のとりくみ
 - (3) 私たちができることを考える
 - ① 公的支援の充実をより強く求める活動
 - ② 青年期以降の就労の支援や情報提供のあり方